

平成26年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業  
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	秋田県
研究開始年度	平成25年度

## I 概要

### 1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名
秋田県	特別支援学校	知的障害	あきたけんりつひなひようごがっこう 秋田県立比内養護学校
秋田県	特別支援学校	知的障害	あきたけんりつひようごがっこう 秋田県立ゆり養護学校
秋田県	特別支援学校	知的障害	あきたけんりついなかわひようごがっこう 秋田県立稲川養護学校

### 2 研究テーマ

新学習指導要領の趣旨等を踏まえ、多様なニーズに応じた教育課程の編成

### 3 研究の概要

障害の重度・重複化、多様化が進んでいる県内特別支援学校児童生徒の自立と社会参加に向けた指導の改善を図るため、知的障害特別支援学校3校を指定し、教育課程の編成等についての実践研究を行った。

比内養護学校では、学校の特色を生かした地域とつながる授業づくりを通して、児童生徒の社会参加の力を育む教育課程の在り方を研究した。各学部段階における地域活動のキーワードの設定、生活単元学習など教育課程の中心となる指導の形態の模式図作成等により、教育課程や授業の評価・改善を進めた。

ゆり養護学校では、自ら考え、自ら活動する児童生徒の育成を目指し、学習指導と生徒指導を両輪とし、生徒指導の観点を大切にされた授業づくりと教育課程の改善を研究した。単元・題材の設計段階を重視した「授業デザインミーティング」、生徒指導の観点で整理した「授業評価シート」の活用等により、授業づくりと教育課程の改善を進めた。

稲川養護学校では、地域社会と連携したキャリア教育の検討と実践を通して、働く力を育む教育課程の編成を研究した。各学部で育てたい働く力を整理した上で、指導内容等の学部間のつながりと地域とのつながりを重視した取組や教育課程と授業の評価・検証の機会を示した「研究のイメージ図」に基づき、授業実践と教育課程の編成を進めた。

#### 4 研究の成果

三校とも、各学部で育てたい力などを明確にし、学部間の関連を図ったことや、地域社会との連携による教育活動を充実させたことにより、授業づくりを通じた指導内容・方法等の検討が進み、教育課程の改善につながった。

比内養護学校では、各学部段階における地域活動のキーワードの設定により、授業のねらいが明確になるとともに、地域活動の各学部等の位置付けや意味を理解して実践できた。また、中心となる指導の形態の模式図に基づく実践を積み重ねたことにより、学校全体としてまとまりのある学習活動ができた。

ゆり養護学校では、「授業デザインミーティング」や「授業評価シート」の活用により、生徒指導の観点を大切にした単元・題材設定と指導内容・方法の吟味、授業の評価・改善につながった。また、各学部の目標や重点等を整理して「カリキュラムデザイン表」を作成した。それを基にして教育課程を見直したり、授業改善を行ったりすることができた。

稲川養護学校では、各学部で育てたい働く力を整理したことで、目標設定の視点が明確になり、年間指導計画や授業が改善された。指導内容等の学部間のつながりと地域とのつながりを特に重視した全校児童生徒参加の地域イベントは、各学部の日々の授業を生かすとともに、働く力を育む教育課程の核となる教育活動となった。

#### 5 課題と今後の方策

本研究を通じて教育課程編成のシステムを作った学校もあるが、研究組織を機能させて教育課程の改善につなげることは三校とも不十分であった。教育課程の編成において核となる教務主任の役割を明確にし、大きく位置付ける必要がある。

比内養護学校では、各教科等を合わせた指導と教科別・領域別の指導の関連を一層図り、実践することが必要である。各担当が作成した年間指導計画を照らし合わせ、関連を検討する機会などを設ける。また、地域活動のキーワードを踏まえた実践が計画的に行われているか、継続して確認していく。

ゆり養護学校では、単元・題材設定力を高めることが課題であり、「授業デザインミーティング」を継続する。また、今年度作った教育課程編成のシステムを機能させ、「カリキュラムデザイン表」等を一層活用することにより、教育課程の改善を継続する。

稲川養護学校では、指導内容・方法の妥当性が課題である。教師の教えたいことが児童生徒の学びにつながっているか児童生徒の視点から見直すなど、学習評価の在り方を検討し、児童生徒のキャリア発達を支援する研究を一層推進していく。